

～畜産安心ブランド生産農場だより～

「クリーンビーフ生産農場」に認定されて

新発田市本田：

猪股ファーム 猪股 一直 氏

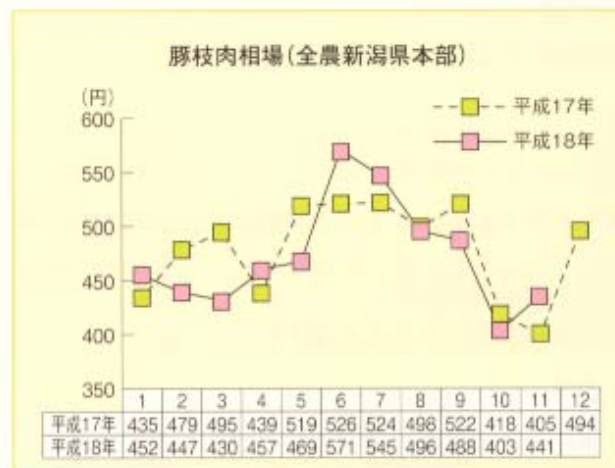
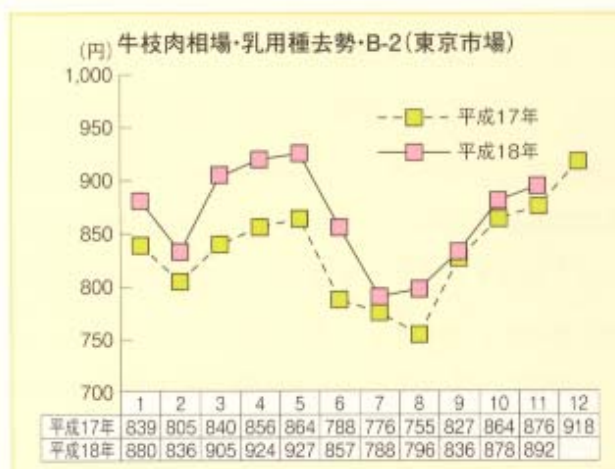
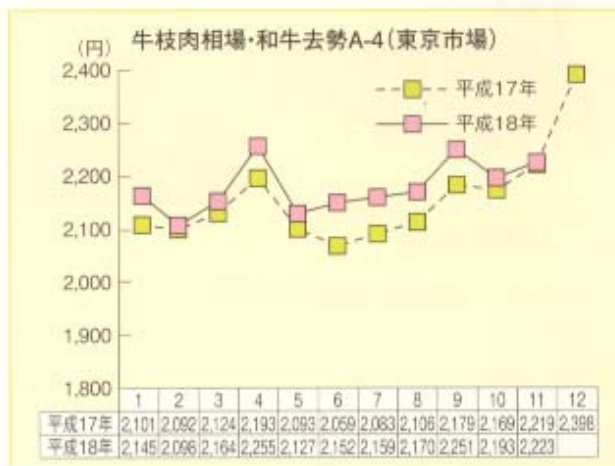
BSEの発生以来、消費者の「食の安全・安心」に対する関心とニーズが高まり、また薬の残留についてポジティブリスト制度が始まるなど、食をめぐる状況が一昔前とは大きく変わってきました。当農場では従来からも飼養管理には注意と工夫を行い、薬の使用や衛生に気をつけて牛を育て出荷してきましたが、(社)新潟県畜産協会が推進している「畜産安心ブランド生産農場認定事業」の事を知り、HACCPに取り組みクリーンビーフ生産農場として認定されました。

この取り組みを契機に、衛生プログラムの確認、関係書類の整理や治療の記録等の管理方法を見直し、今まで以上に「安心して食べてもらえる牛肉」の生産に取り組んでいるところです。クリーンビーフ生産農場数は、10農場とまだまだ少ない状況にあります。今年度も認定取得に向け、この事業に取り組んでおられる農場が10数件あると聞きました。

米国産牛肉の輸入が再開し、牛肉市場は厳しい状況となってきましたが、多くの農場が認定を取得され、これにより新潟県産牛肉の「安全・安心」を消費者の皆様へPRし、米国産牛肉に負けないことと消費拡大に繋がることを期待しています。



畜産物市況



編集後記

師走を迎え、何かとあわただしい毎日を送っております。さて、最近の新聞紙面を大きく賑わしているのは豪州とのFTA(自由貿易協定)交渉問題であります。我々畜産に携わる人間としては驚愕とする問題であり頭の痛い話であります。豪州のような食料輸出大国との関税撤廃が原則のFTA(自由貿易協定)を結ぶこととなれば、国内の農業や地域経済が大きな被害を受けることが目に見えます。特に豪州産牛肉の関税撤廃は、品質面で競合する国内生産の6割を占める乳用・交雑種の価格は大暴落を招くことは想像できます。平成13年のBSE発生による経営的な損失がようやく立ち直りつつある今日、今後の交渉の経過を注目するものであります。

(花田記)